第１章　歴史文化基本構想の策定

１　策定の背景と目的

（１）これまでの文化財保存・活用の取り組み

本町は、奥羽山脈と阿武隈山地に挟まれ、阿武隈川水系により形成された福島盆地の北縁部に位置し、盆地特有の気候と自然が生み出す大地の恵みにより原始・古代から人々の営みが連綿と続けられてきた。文治５（1189）年に藤原泰衡（やすひら）が源頼朝率いる鎌倉軍を迎え撃つため築かせた阿津賀志山防塁（あつかしやまぼうるい）（国指定史跡）や、江戸時代以後にぎわいを見せた奥州街道・羽州街道の宿場、また各地で受け継がれる信仰や祭礼など、往時を偲ばせる遺跡や建造物、この地で培われてきた人々の知恵や文化などが現在でも多数残されている。

写真 1-1　阿津賀志山防塁

本町の文化財保存及び活用に関する活動は、住民を主体として取り組まれてきたことに特徴がある。戦中戦後の開発に伴う文化財の滅失を危惧し、歴史の愛護・保護意識を高めた町民によって、昭和 31（1956）年、町内文化財の保護・顕彰を目的とした「国見町文化財保護観光協会」が設立された。この協会の設立により、顕彰活動や文化財保存に向けた活動が行われ、町への働きかけにより、昭和 44（1969）年に国見町文化財保護条例が制定された。以後、本町は町の貴重な文化財を積極的に町の文化財に指定し、保存及び活用に努めてきた。翌年の昭和 45（1970）年には、町内各地区に文化財保存会が結成され、地域単位での取り組みも始まる。同年、町では町史編さん事業を開始し、多くの住民協力者により歴史文化に関わる膨大な情報が集められた。

写真 1-2　文化財保護・顕彰活動
（阿津賀志山防塁石柱建立）

上記の活動が広がる中、昭和 46（1971）年には、「国見町郷土史研究会」が発足する。

写真 1-3　祭礼の伝承活動
（内谷春日神社太々神楽・子ども神楽教室）

東北自動車道の建設（昭和 44〔1969〕～50〔1975〕年）や伊達西部ほ場整備事業（昭和 50〔1975〕～60〔1985〕年）に際し、阿津賀志山防塁の開発が計画されると、発掘調査への協力、町や県に対する要望活動、保存運動などが精力的に行われ、昭和 56（1981）年に阿津賀志山防塁が国史跡として指定される原動力となった。現在も続く我が郷土に関する調査研究活動は更に深化し、会報として発行する『郷土の研究』は平成 31（2019）年３月で第 49 号を数える。

写真 1-4　道の駅国見あつかしの郷

平成 20（2008）年には、国見町郷土史研究会の有志を中心として「国見町文化財ボランティア」が組織され、20 人を超える会員が、来町者への文化財案内や町の観光づくり事業への

協力など積極的な活動を行っている。

また、近年の行政の取り組みとしては、平成 27（2015）年に『国見町歴史的風致維持向上計画』を策定し、国の認定を受けた。「阿津賀志山の合戦と顕彰・教育活動にみる歴史的風致」をはじめとする、町の維持向上すべき７つの歴史的風致を掲げ、この地に住む私たちが、この町の「誇り」を再び取り戻し、その思いを共有できるよう、歴史を活かしたまちづくりに取り組んでいる。この取り組みの一つとして整備した「道の駅国見あつかしの郷」は平成 29（2017）年５月にオープンし、まさに現代版の宿駅となり町内外との新たな交流を生み出している。当該施設を本町の歴史文化の情報発信・周遊の拠点として、歴史文化資源の活用を図り、更なる取り組みを推し進めているところである。

（２）策定の背景と必要性

これまで、町の歴史を愛する先人たちの取り組みと努力により、多くの歴史文化資源が守られ、現代に受け継がれてきた。また、『国見町歴史的風致維持向上計画』の策定にかかる取り組みや、策定以降の歴史まちづくり事業の実施により、歴史文化の保存・継承や、「歴史のまち国見」としての町民の意識が向上し、本町が持つ歴史的価値に関する町外への周知・啓蒙は着実に図られてきている。

しかしながら、我々を取り巻く社会環境の変化は、速度を増して進行している。平成 23（2011）年に発生した東日本大震災・東京電力福島第１原子力発電所の事故から９年が経過し、本町は復旧・復興から創生へと歩みを進めているが、この震災が変化の加速度に与えた影響は少なくない。価値観や生活の多様化はもとより、人口減少・少子高齢化は本町の喫緊の課題であり、各地域に息づいてきた信仰や祭礼･習慣などを継承･継続することが容易でなくなりつつある。また､『国見町歴史的風致維持向上計画』において掲げた７つの歴史的風致以外に、保存・活用していくべき歴史文化資源について、それらの全体を把握し、価値を理解し、明らかにするところまで至っていないのが現状である。

「歴史のまち国見」として町民の意識が高まり、町外へも根付き始めた今、後世へ伝えていくべき我々の営みや本町の歴史を改めて紐解き、その価値を見直し、よりよい状態で引き継いでいく仕組みづくりが必要となっている。

（３）策定の目的

本構想の策定は、町内に存在する歴史文化資源を総合的に把握し、その価値を顕在化して、本町における歴史文化の特徴を明らかにするとともに、それらの周辺環境も含め総合的に保存・活用していく方針を定めることを目的とする。また、本町の既存上位・関連計画や施策と連携を図り、この地でこれまで培われてきた人々の知恵、文化、歴史を受け継ぎ、未来へ伝えていくための地域づくり、まちづくりに資するものとする。

（４）期待される効果

本構想を策定することにより、以下のような効果が想定される。

① 各地域が持つ歴史文化資源を改めて認識し、その価値を理解することにより、町民の文化財保護意識が高まり、郷土への誇りと愛着が生まれる。
② 各地域の特性や新たな魅力を見出し、それらを資源として観光や商工業等に活かすことにより、その価値が高まり、町内外の交流が拡大する。
③ 地域活動や教育現場、町事業等において本構想を活用し、歴史文化資源の価値について普及を図ることにより、次世代への継承がなされる。

２　構想の行政上の位置付け

（１）行政上の位置付け

本構想は本町の最上位計画にあたる『第５次国見町振興計画（後期計画）』の基本目標・政策・施策を推進し、まちづくり関連計画となる『国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略』の理念や目標を実現するために位置付けられた具体的な取り組みと連動する。また、先に策定された『国見町歴史的風致維持向上計画』及び策定が進む『国見町歴史的景観保存計画』（仮称）と連携し、歴史まちづくり・文化財保護・景観行政を推進する構想であり、文化財保護行政のマスタープランとして位置付けるものである。本構想及び『国見町歴史的風致維持向上計画』の下には、現在『阿津賀志山防塁整備基本計画』を策定して取り組んでおり、今後も必要に応じて事業実施に関わる実施計画を策定する。

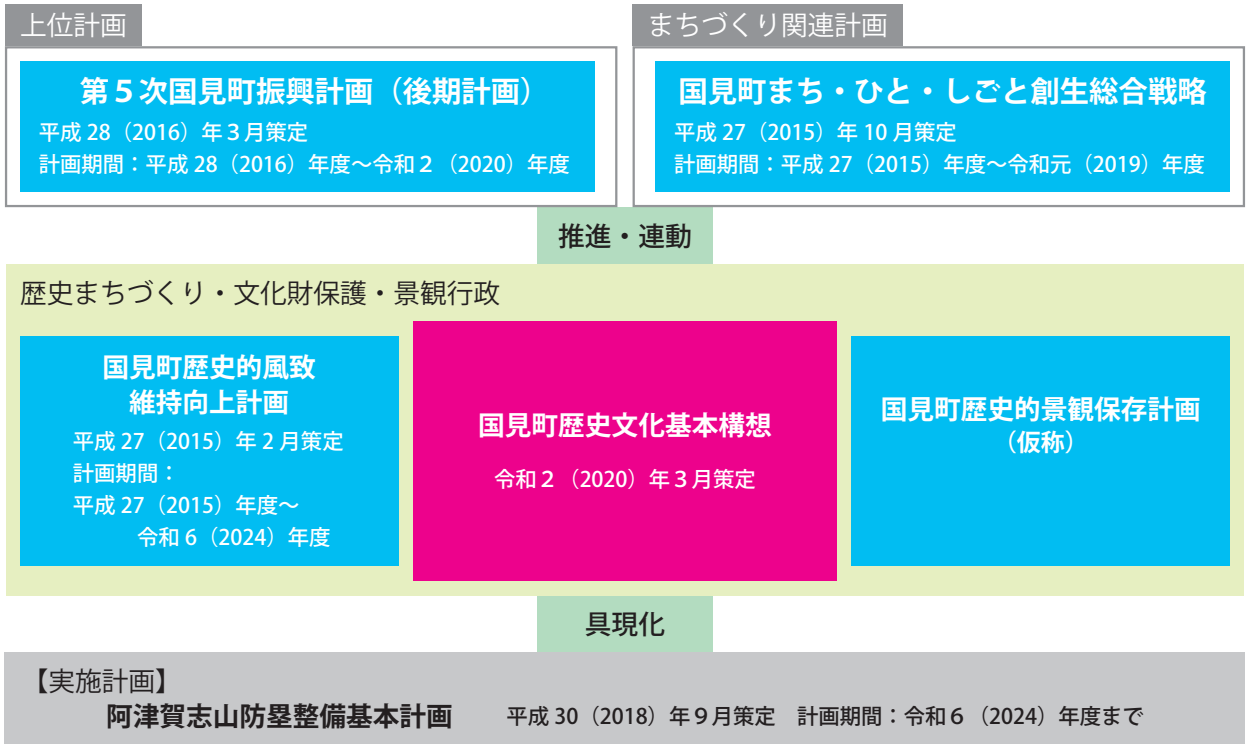

図 1-1　歴史文化基本構想の位置付け

（２）上位・まちづくり関連計画

『第５次国見町振興計画（後期計画）』

『第５次国見町振興計画（後期計画）』は、本町のまちづくりの基本理念及び将来像を定め、平成 28（2016）年度から令和２（2020）年度までの５年間を計画期間とし、平成 28（2016）年３月に策定したものである。

本計画は５つの基本目標、３つの政策、30 の施策で構成され、このうち、基本目標として「地域の資源を活かし、自然と調和したまち」や「地域の資源を受け継ぎ、心豊かな人を育むまち」などを掲げ、本町の恵まれた自然環境や、国見の風土で醸成された「文化や風習、人柄、自然、食文化、歴史的な建造物」などの地域資源は次世代へ受け継ぐべきものとし、魅力ある居住環境の形成や郷土を支える人材育成をめざすとしている。

以下に、本計画における歴史文化資源の保存と活用に関する主要施策の抜粋を掲載する。

『第５次国見町振興計画（後期計画）』

政策Ⅰ．地域資源を活かしたまち

施策４　地域の資源を活かした魅力ある景観の形成

自然景観事業（耕作放棄地の再生）　地域農業再生協議会と連携し、耕作放棄地解消のための再生への支援を行い、休耕田の活用など農業の多目的機能を維持・発展により、農村の景観形成を図ります。

町並み景観事業（藤田宿・小坂宿・貝田宿）　景観条例の整備により、宿場町であった町並み景観の維持や再現により、国見町らしい町並み景観形成を図ります。

歴史的景観事業（歴史的建造物の保全・整備）　奥山家住宅や旧佐藤家住宅をはじめ、石蔵、養蚕住宅など歴史的価値のある建造物の保全と活用を進め、地域資源の価値の向上を図ります。

施策９　国見町の特産品の開発と振興

地域の食づくり・食の伝承事業　郷土料理や地元食材を活用した料理のレシピづくりを進め、食と生活文化を後世に伝えるとともに、新たな名産品づくりや農産物加工品等の加工施設を整備し、先人から受け継がれた知恵と手わざを活かしたしごとづくりを推進します。

施策 10　国見町の資源を活かした観光振興

歴史を活かしたまちづくり推進事業　町内にある数多くの文化財について、保存に留まらず、活用への転換を図り、情緒あふれる良好な景観の形成、環境資源や教育活動の場としての活用など、地域のたからものを磨き上げていきます。

地域資源を活かした観光創出事業　歴史を活かしたツーリズム、農業を活かしたグリーンツーリズム、藤田総合病院と連携したヘルスツーリズムなどの周遊型体験観光プログラムを開発し、また地域間連携により都市農村交流を図ります。

文化観光物産交流事業　近隣市町村や他地域との交流（岐阜県池田町、北海道ニセコ町、岩手県平泉町など）により、人・文化・観光物産の地域間交流の拡大を図ります。

施策 11　歴史や文化財の保護と活用

歴史まるごと博物館事業　町全体が博物館、町民一人ひとりが学芸員となり、町民も町外の人たちも国見町の豊かな自然・歴史文化を実感できるエコミュージアムづくりを推進します。

伝統芸能・無形民俗文化財伝承事業　内谷春日神社太々神楽や鹿島神社例大祭をはじめとする伝統芸能・無形民俗文化財の後継者を育成支援し、伝統文化の継承と文化を通した世代間交流を図ります。

阿津賀志山防塁整備事業　貴重な文化遺産を後世に伝え残していくため、国史跡「阿津賀志山防塁」の史跡整備と保存に向けた取り組みを進め、保護と活用を図ります。

『国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略』

『国見町まち･ひと･しごと創生総合戦略』は、本町の人口減少を克服し、地域の活性化を推進する施策･取り組みを進めることを目的とし、平成 27（2015）年度から令和元（2019）年度までの５年間を計画期間として、平成 27（2015）年 10 月に策定したものである。

本総合戦略は、４つの基本目標、８つの重点プロジェクト、31 の具体的施策で構成されている。基本

目標の１つとして「町の魅力を活かした歴史文化観光・農業観光による地域交流づくり」を掲げ、めざすべき姿を「一度来たら好きになる国見町」と定め、以下４点の推進を目標としている。

○ 国見のたからもの（文化や風習、人柄、自然、食文化、歴史的な建造物まで、恵まれた国見の風土から醸成されたもの）の未来への継承

○ 国見町で暮らしていることに誇りを持ち、この町で生活することの豊かさを一人ひとりが感じられるまちづくり

○ 豊かな自然と長い歴史の中で生まれた伝統文化や農業の体験やまち巡りなど着地型観光・滞在型観光「めぐりの町」

○ 国見町に縁のある方、国見町のファンの方など、縁のつながりと人のつながりの拡大

以下に、当該基本目標における重点プロジェクトと具体的施策（事業）の抜粋を掲載する。

『国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略』

基本目標Ⅱ.「町の魅力を活かした歴史文化観光・農業観光による地域交流づくり」

歴史まちづくりプロジェクト

①歴史を活かしたまちづくり推進事業

歴史まちづくりの普及啓発と調査研究を進め、歴史的建造物の修繕などの職人学校や伝統的技術の継承・復活に向けた取り組み、子どもから大人までの歴史文化の案内ボランティアガイド講座などの人材育成に取り組み、歴史コンテンツの利活用拡大を図ります。

町内にある数多くの文化財について、「保存」に留まらず、環境整備により「活用」への転換を図り、情緒あふれる良好な景観の形成、観光資源や教育活動の場としての活用など、地域のたからものを磨き上げていきます。

②歴史まるごと博物館事業

町全体が博物館、住民一人ひとりが学芸員となり、地域の住民も町外の人たちも国見町の豊かな自然・歴史文化を実感できるエコミュージアムづくりを推進します。

モデル地区を中心に、文化活動を行う団体、企業、NPO、ボランティア等と連携しながら、歴史文化を学び、村々の祈りや生活文化、現在の産業や人々に触れ、訪問者が地域を巡り体験できるプログラムづくりを進めます。

③伝統芸能・無形民俗文化財伝承事業

内谷春日神社太々神楽をはじめとする伝統芸能の後継者を育成し、伝統文化の継承と文化を通した世代間交流を図ります。

保護継承団体と連携した映像による記録保存や、体験教室の開催や伝統芸能の披露の機会を増やすなど、地域の子どもたちに自分の住む地域の歴史や祭礼、伝統芸能に関わる機会を創出します。

④歴まちあるきガイドアプリ事業

ICT の活用により、まちあるきのコンテンツを製作し、今と昔の国見町を伝え、1000 年のまちの情報発信を図ります。

国見町の魅力を十分に体感してもらうために、ガイドブックに加え、モバイル機器を活用した周遊観光の実現に向けて、子どもからお年寄りまで楽しめる周遊コースの設定と観光客向け Wi-Fi などの環境整備を進めていきます。

体験観光プロジェクト

①地域資源を活かした観光創出事業

旅行会社とのタイアップにより、歴まちを活かした歴史ツーリズム、農業を活かしたグリーンツーリズム、藤田総合病院と連携したヘルスツーリズムなどによる体験型観光プログラムを実施し、都市農村交流を図ります。

歴史的建造物や石造建築物、史跡などの町の歴史文化を情報発信するガイダンス施設や機能の充実、果樹ガーデンや野菜ガーデンなどの農業体験施設の整備など、見て、触れて、感じることができる観光を創出していきます。

周遊観光バスや電気自動車等の導入により、観光客の利便性を向上し、まちあるき観光を推進していきます。

（３）歴史まちづくりに関する計画

『国見町歴史的風致維持向上計画』

『国見町歴史的風致維持向上計画』は、歴史を活かしたまちづくりを推進し、国見町固有の歴史的風致の維持及び向上を図るため、平成 27（2015）年度から令和６（2024）年度までの 10 年間を計画期間として策定し、平成 27（2015）年２月に国の認定を受けたものである。

前述の上位計画に基づき施策の推進を図ることで、この地に住む私たちが、この町の「誇り」を再び取り戻し、私たちがその思いを共有できるような「まちづくり」に資するものとしている。

本計画では、７つの維持向上すべき歴史的風致を設定し、維持向上に関する方針を定めている。また、歴史的風致の継続的な維持向上に向けて、文化財の保存・活用の方針と重点区域の設定、区域内での歴史的風致維持向上施設の整備に関する事業と全町的な保存・活用に関わるソフト事業について定めたものである。

表 1-1　国見町の維持向上すべき歴史的風致

1．	阿津賀志山の合戦と顕彰・教育活動にみる歴史的風致	
2．	旧奥州街道藤田宿における歴史的風致	
	（1）	旧藤田宿の町並み
	（2）	鹿島神社例大祭にみる歴史的風致
	（3）	在郷町の市にみる歴史的風致
3．	旧奥州街道貝田宿にみる歴史的風致	
4．	石蔵と石工技術にみる歴史的風致	
5．	光明寺集落の水利用にかかわる歴史的風致	
6．	内谷春日神社の祭礼にみる歴史的風致	
7．	鳥取福源寺観音講にみる歴史的風致	

表 1-2　国見町の歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

1　阿津賀志山防塁の保存・活用に関する事業
（1）阿津賀志山防塁史跡整備事業
（2）阿津賀志山防塁史跡アクセス道改修事業
（3）阿津賀志山防塁歴史公園整備事業
2　伝統を反映した人々の活動に関する事業
（4）無形民俗文化財活動支援事業
3　歴史的建造物に関する事業
（5）歴史的町並み調査事業
（6）国見石保存・活用調査事業
4　歴史的建造物・遺産を取り巻く環境に関する事業
（7）町道美装化・無電柱化整備事業
（8）奥山家住宅周辺公園整備事業

5　歴史的風致に対する意識向上と情報発信に関する事業
（9）国見町歴史文化読本作成事業
（10）歴史を活かしたまちづくり推進事業
（11）情報発信拠点整備事業
（12）文化財保存ガイダンス施設整備事業
（13）案内ボランティア育成事業
（14）周遊性向上検討・案内板設置事業
6　歴史文化遺産の総合的な把握に関する事業
（15）地域の文化遺産の総合的な把握のための調査事業

図 1-2　国見町歴史的風致維持向上計画の概要

3　策定の体制

（1）策定の体制

本構想の策定にあたり、有識者からなる「国見町歴史文化基本構想策定委員会」（以下「策定委員会」という。）を設置した。

また、策定委員会と並行して、「歴史まちづくり庁内検討委員会」（歴史まちづくりプロジェクトチーム、以下「庁内検討委員会」という。）において、庁内検討を行った。

策定委員会と庁内検討委員会は、いずれも事務局をまちづくり交流課歴史まちづくり推進室に置くこととした。

① 歴史文化基本構想策定委員会

本構想の策定においては、歴史文化資源の把握や関連文化財群の設定等に関して可能な限り多くの専門分野から広く意見を求める必要があり、また、今後の保存・活用の考え方やそのための体制整備に関する指導・助言を得るため、文化財・景観・文化行政に精通した学識経験者や郷土史・祭礼に関する地元識者・歴史的建造物所有者、行政関係機関で構成される策定委員会を設置した。

なお、策定委員は国見町歴史的風致維持向上計画との関連性と一貫性のある検討の必要性を考慮し、国見町歴史的風致維持向上計画協議会委員を兼務する形とした。

表 1-3 「国見町歴史文化基本構想策定委員会」の構成

	No.	氏名	分野	所属	備考
学識経験者	1	柳原 敏昭	歴史科学・日本史学	東北大学大学院文学研究科教授	◎委員長
	2	杉本 洋文	建築学・都市計画・建築計画	東海大学工学部特任教授	○副委員長
	3	羽生 修二	西洋建築	東海大学名誉教授	
	4	若林 繁	仏像・美術史	元東京家政大学教授	
	5	平井 太郎	地域社会学	弘前大学大学院准教授	
	6	知野 泰明	土木史・景観工学	日本大学工学部准教授	
	7	懸田 弘訓	民俗芸能	元福島県文化財保護審議会副会長	
	8	仲田 茂司	考古学・造園	有限会社仲田種苗園代表取締役	
歴史的建造物識者・所有者	9	齋藤 隆夫	歴史的建造物の保存・修復	福島県建築安全機構専務理事	
	10	奥山 トキ子	国登録文化財所有者	奥山合名会社代表社員	
郷土史・民俗に関する地元識者	11	中村 洋平	郷土史	国見町郷土史研究会会長	
	12	黒田 加津臣	無形民俗文化財保存団体	国見伝統文化保存会会長	
	13	佐藤 清二	無形民俗文化財保存団体	春日神社太々神楽保存会会長	
行政	14	青木 隆直	行政・まちづくり	福島県土木部まちづくり推進課長	
	15	鈴木 俊明	行政・文化財保護	福島県教育庁文化財課長	
	16	外川 泰司	行政・建築・都市整備	福島県県北建設事務所 主幹兼企画管理部長	
	17	佐藤 弘利	行政	国見町副町長	

② 歴史まちづくり庁内検討委員会
（歴史まちづくりプロジェクトチーム）

庁内関係各課が持つ関連計画や現在進行中の取り組みの中から歴史文化資源や関連文化財群の設定に有用な情報を収集し、歴史まちづくりに向けた事業の連携を検討するため、国見町歴史的風致維持向上計画の進行管理を行う庁内検討委員会において、本構想の策定に向けた検討と情報共有を行った。

表 1-4 「歴史まちづくり庁内検討委員会（歴史まちづくりプロジェクトチーム）」の構成

所属
まちづくり交流課
企画情報課
建設課

4　策定の経過

５か年の策定期間中、最初の２年間は歴史的建造物悉皆調査を実施、３年目は策定に必要な基礎資料作成を行い、文献調査・アンケート方式による情報収集によって歴史文化資源の把握を進めた。４年目からは計画策定の実作業を進め、計画素案については、策定委員会を４回、庁内検討委員会を５回開催し、内容の検討・精査を行った。また、策定作業と並行して、町民向けの講演会の開催や、町民・各種団体への聞き取り調査・意見交換等を行い、歴史文化資源の所在・実態等に関する情報の充実を図った。

（１）平成 27（2015）年度、平成 28（2016）年度

① 調査

町内全地区に現存する社寺建築及び民家・近代建築・近代化遺産（以下「民家等」という。）のうち建築後 50 年を経たもの等を対象とし、歴史的建造物悉皆調査を実施した。外観からの目視、聞き取りにより、物件の所在、建築年代、構造形式等を記録し、伝統的形式を持つ社寺 74 件（209 棟）、本町特有の石造建築物や産業発展の歴史につながる地域の特色が現れている民家等 1,207 件（1,963 棟）について第一次調査台帳として整理することで、保存と活用を図る必要がある建造物の把握を行った。

また、地域の歴史文化資源の総合的な把握を行うため、平成 28（2016）年度から平成 30（2018）年度の３年間、計 60 回にわたり、長年本町の歴史資料の研究・収集に努めてきた菊池利雄氏から聞き取り調査を実施し、資料の把握作業を行った。

写真 1-5　建造物悉皆調査

写真 1-6　菊池利雄氏聞き取り調査

② 講演会

平成 27（2015）年度に行った歴史的建造物悉皆調査の成果について、住民への周知を図るため、平成 27（2015）年８月 30 日に「国見町寺社建造物調査中間報告会『国見町の社寺や堂について』」を開催した。同報告会では、調査の委託業者である株式会社グリーンシグマの山崎完一氏が、本町固有の特徴ある社寺建築物について、「住んでいる人は、普段見慣れているので何とも感じないかもしれないが、外から来た者にとって

写真 1-7　平成 27（2015）年度講演会

は大変珍しいものである。」また、一連の歴史的建造物調査について、「文化財というと敷居が高いと思われがちだが、あるものを再発見する『お宝さがしプロジェクト』である。」と講演した。来場者からも講演で取り上げた神社に関するエピソードの紹介や今後の調査に期待する等の意見が出された。

（２）平成 29（2017）年度

① 調査

本構想の策定に必要な基礎資料作成として、本町の歴史文化について記述された重要な文献 98 点（国見町史、郷土誌、文化財調査報告書等）及び関連資料の調査を実施し、歴史文化資源情報の抽出を行った。また、地域に潜在している歴史文化資源を把握するため、一般世帯（町内全戸）に対し、アンケート方式による歴史文化資源の情報収集を実施した。

調査で得られた歴史文化資源 5,424 件は一覧表として分類ごとに整理･精査し、この中から地域にとって重要視すべきもの、特徴的なものについて選択し、文化財カルテ 709 件を作成した。また、カルテに記載された文化財を分類別に図示した文化財分布図を作成した。

② 講演会

歴史文化基本構想の策定に向け、住民への周知及び町の歴史文化資源に対する意識の向上を図るため、平成 29（2017）年 10 月 14 日に「地域の文化遺産を活かした歴史まちづくりに向けて～あまり知られていないけれども、実はすごい国見の話」と題し、第９回国見町歴史まちづくりシンポジウムを開催した。

これまで町が調査をしてきた歴史的建造物や伝統文化、自然や暮らしについて講演を行うとともに、本町が持つ地域資源を再発見し、「歴史文化基本構想」への住民の関わり方等についてディスカッションを行った。文化財をはじめとした地域資源や町の取り組みについて周知が図られ、歴史を活かしたまちづくりへの住民意識向上と合意形成が推進された。

写真 1-8　平成 29（2017）年度講演会

表 1-5　平成 29（2017）年度講演会講師等

氏名（所属等）
結城登美雄氏 （民俗研究家）
平井太郎氏 （弘前大学大学院地域社会研究科准教授）
村上佳代氏 （文化庁文化財調査官）
梅嶋修氏 （株式会社グリーンシグマ）

（３）平成 30（2018）年度

① 策定委員会

・第１回策定委員会

国見町歴史文化基本構想策定委員会として 17 名の委員を選定し、平成 30（2018）年４月１日に設置した。同年５月 25 日に第１回策定委員会を開催し、委嘱状交付、事業趣旨及び年次計画、これまでの事業成果、平成 30（2018）年度の取り組みについて報告を行い、ストーリー（素案）に関する意見交換を行った。

委員からは、ストーリーの精査をはじめ、明治の産業・養蚕を裏付ける器具・用具等に関する所在確認や保存の必要性等が指摘された。

写真 1-9　第１回策定委員会

・第２回策定委員会

平成 31（2019）年２月 19 日に第２回策定委員会を開催し、計画策定の進捗状況を報告するとともに、構想の骨子案について検討を行った。

第５章の各関連文化財群（ストーリー）の内容については、ワークショップ形式による意見交換を行い、委員からは、各ストーリーの方向性や表現の仕方、肉付けすべきエピソード等について意見が出された。

② 調査

平成 29（2017）年度に実施した情報収集の補足に加え、関連文化財群の設定、歴史文化資源の保存・活用の方針を検討する材料として、町内聞き取り調査を計 12 回実施した。文献から得られない情報を収集するとともに、既知の歴史文化資源を含めた記録（写真・動画撮影等）の実施を含むものとした。個人及び団体への聞き取り調査のほか、11 月 30 日には町民ワークショップ「歴史文化基本構想の策定に向けて～後世に伝えたい、残したい、私たちの営み～」を実施し、グループワークによる情報の収集と普及啓発を行った。

写真 1-10　聞き取り調査の様子
（平成 30〔2018〕年度）

写真 1-11　町民ワークショップの様子
（平成 30〔2018〕年度）

写真 1-12　聞き取り調査の様子
（令和元〔2019〕年度）

（４）令和元（2019）年度

① 策定委員会

・第３回策定委員会

令和元（2019）年 11 月 1 日に第３回策定委員会を開催し、文化庁協議等の経過報告と骨子案の内容についての修正検討に関する意見交換を行った。

委員からは、関連文化財群（ストーリー）に関する考え方における具体的な保存・活用に関する方針と体制について指摘された。

・第４回策定委員会

令和元（2019）年 12 月 25 日に第４回策定委員会を開催し、パブリックコメント等の経過報告と骨子案の内容についての修正検討に関する意見交換を行った。

委員からは、正確でわかりやすい文章表現・図表への修正、誤字脱字について指摘された。なお、会議終了後、本構想について策定委員会委員長より町長に建議が行われた。

② 調査

これまでの調査を補完する目的で、歴史文化資源に関する補足調査を３回実施し、構想に反映させた。

③ パブリックコメント

国見町歴史文化基本構想（骨子案）に対する意見や情報を町民等から募集するために、パブリックコメントを実施した。

本構想（骨子案）の公表は国見町まちづくり交流課・町ホームページ等で行い、意見の募集期間は令和元（2019）年 11 月 25 日から 12 月 9 日までとした。

期間中、本構想（骨子案）の記載内容に寄せられた意見については、町の考え方について回答を整理し、本構想（骨子案）の公表と同じ方法で公開を行った。